めいわ かわら版
vol. 114
2023.4.11

障害者就業・生活支援センター
支援ワーカー

山下 記子（やました のりこ）

「幼い頃から福祉の世界で働くことが夢でした」。

そう語るのは、障害者就業・生活支援センターの支援ワーカーとして活躍する山下記子さんです。希望が叶って、社会福祉法人明和会で働き始めてから13年、さまざまな施設を回ったり、国家資格に挑戦したりするだけでなく、産前産後休業・育児休業も経験しながら仕事の幅を広げてきました。そんな山下さんに思い出深い出来事や失敗談、今後の目標などを聞きました。

――明和会に入職するまでの経緯を教えてください。

兄弟が多く、下の子たちの面倒を見ていたこともあって、小学生の頃から保育士の仕事をしたいと思っていました。その後、高校へ進学する時期に高齢者問題にも興味を持ち、福祉を学べる学校を選んだのです。そこで学ぶうちに、子どもから高齢者までさまざまな年齢層の人とかかわりたいと思うようになり、福祉系の大学に進みました。

就職活動をしていたときに、出会ったのが明和会です。幅広く事業展開をしていて、私が思い描いていた限定されない福祉の仕事ができると考え、さっそく応募したところ、無事採用されました。

――思い出に残っている仕事はありますか。

入社3～4年目頃のことです。入所施設で働いていたときに音楽会の司会を任されました。緊張した反面、とても楽しかったため印象に残っています。

数か月くらい前から演出を考え、当日は袋井学園のレインボーホールで数百人を前に司会をし、私が音頭を取って歌も歌いました。準備を含めると期間も長くて大変でしたが、会の終了後に「良い司会だったよ」とお褒めの言葉ももらえたときは、非常に嬉しかったものです。その後講演会の講師や新入社員向けの講義を担当する機会があり、音楽会の経験が生かされているように思います。

――失敗した経験はあるのでしょうか。

入所施設で働いていたとき、興奮している利用者様の対応を1人でしようとして、できた傷が今も手に残っていて、それを見るたびにあのときの出来事を思い出します。もう少し様子を見るか、応援を頼んでいれば怪我をせずに済んだかもしれませんし、利用者様との関係性も大切だと感じました。あれ以来、落ち着いて状況を判断し、すべて1人で何とかしようとせずに、場合によっては応援を頼もうと考えるようになりました。ほかの職員の対応方法を見て学ぶのも正しい判断のために必要ですから、先輩たちの仕事ぶりを手本にしています。

――今はどのような仕事を担当していますか。

現在は、地域の障がい者の方の生活支援や就職支援を行っているため、まずは気持ちに寄り添うことを大切にしています。同時に第三者だからこそ見える周りの状況を考慮しながら、将来を考えた最善の方法を取れるよう支援していくのが理想。何人も対応してきた過去の経験が、今の支援に生かせるケースがあります。経験を積むのは大事なことなのだとつくづく思います。

――育児休業を利用した感想をお聞かせください。

育児休業中は職場が気になったものです。復帰する際には、以前のように戻れるのか不安もありました。子どもの不調による呼び出しで満足に業務をこなせず、当初は迷惑をかけて申し訳ない気持ちになりましたが、一緒に働いている職員の温かい対応のおかげで、今は働きやすさを感じています。私も後輩たちが育児休業から戻ってきたときには、自分の経験を生かして支えたいと思っています。

せっかく幼い頃から夢見てきた職業に就けたのですから、家庭と仕事の両立が大変でも、前向きに頑張っていきたいと気を引き締めています。

――最後に、今後の目標をお願いします。

利用者様の支援をより充実したものにするため、資格を含めて専門知識の習得に力を入れていくつもりです。そして、過去の失敗体験から学んだように、この仕事は職員同士の協力や利用者様との信頼関係や関係機関との連携が大切です。皆が働きやすく、支え合える環境づくりに注力したいと考えています。

利用者様はもちろん、ともに働く職員への深く温かい気持ちを胸に走り続ける山下さん。今後の活躍から目が離せません。

＜企業情報＞
社会福祉法人明和会
■法人認可：1966年11月
■職員数：393人
※2023年３月時点
■問い合わせ先：0538-42-3228

明和会のInstagramはこちらから！

山下さんへのメッセージ

巻頭インタビューを飾る山下さんの魅力を深掘り！職場を共にされている身近な３名の方が紹介してくれています！

山下さんを一言で表すと……

しっかりしていますが、
天然なところもあり面白い方

山下さんのすごいところ

家事と仕事の両立は大変だと思いますが、しっかり自分の仕事をしているところです。また一人ひとりの相談者様に対して、真摯に誠実に丁寧に向き合って仕事をしているところもすごいと思います。

山下さんとの思い出

大事な会議の準備や重要な頼みごとを、快く引き受けてくれ大変ありがたく思っています。細かなことにも気づいてくれ、助けてくれます。ときどき、お願いしたことを忘れていることがあり、おもしろい方です。

メッセージ

いつもありがとうございます。仕事に関して信頼をしていますが、困ったときはいつでも相談してください。

障害者就業・生活支援センター 主任就業支援ワーカー **柴田（しばた） 量吉（りょうきち）さん**

山下さんを一言で表すと……

生真面目

山下さんのすごいところ

どなたにも、正面に向き合い真摯に対応されます。

山下さんとの思い出

結婚式にお招きいただいたときの印象が強く、思い出します。

メッセージ

どなたにも真摯に対応されますので、私も山下さんに少しでも近づきたいと思っています。

障害者就業・生活支援センター 就業支援ワーカー **福田（ふくだ） 美千彦（みちひこ）さん**

山下さんを一言で表すと……

やわらかい空気を纏（まと）っている

山下さんのすごいところ

いつも言葉遣いが丁寧です。相談者様に寄り添いながら、瞬時にポジティブな言葉をかけているところです！

山下さんとの思い出

女子トーク？

メッセージ

いつも優しく声をかけていただき、ありがとうございます。仕事と家庭生活の両立をされている先輩がいること、とても心強く感じています。これからもよろしくお願いします！

障害者就業・生活支援センター 就業支援ワーカー **榊原（さかきばら） 美晴（みはる）さん**

必見！明和会Instagramの裏側に迫る！

今や知っていて当たり前となったInstagramですが、
当法人でも運営しているのをご存知ですか？
今回はインスタ担当の伊藤さんを直撃取材！
聞けば「なるほど！」とうなずく狙いがありました！

法人本部 事務員
伊藤（いとう） 由香（ゆか）さん

point 1 写真は躍動感で魅せるべし！

個人情報保護の関係で顔が出せないので、表情の代わりに**動きのある写真で楽しさを伝えられるように撮影**しています。とくに、保育園の芋掘りイベント時の写真は個人的に満足いくものになりました。お芋が抜ける瞬間を狙って無事撮影に成功。普段は理事長にも一緒に写真の選定をしてもらっていますが、そのときは「ぜひこの写真を採用してください！」と迫ったほどお気に入りの一枚でした！

point 2 文章は短く柔らかくを志すべし！

様々な世代の方に広く見ていただきたいので、あまりカタくなり過ぎないように気をつけています。私自身、文章が苦手なので常日頃から理事長の知恵をお借りしていますが、逆に理事長ご自身は「自分が考えるとカタくなってしまうから」と、私が柔らかくするように努めています。

一方、私が考案した文章を理事長に添削していただくケースも。とくに言い回しの訂正や修正などでご指摘いただいているので、ありがたい限りです。私と理事長の2人で考案してはいますが、共通しているのは**「長くなりすぎずに短くまとめる」**という意識です。長くなってしまうと読まれなくなるので、注意すべきポイントひとつと言えるでしょう。

point 3 リアルを伝えるべし！

最終的に求人に繋がるよう、明和会の各施設の雰囲気を伝えることを心がけています。求人情報を見た後は、HPやSNSを確認するのが当たり前の時代。その際、**理事長の人となりや働くスタッフたちのリアルを感じて、安心して応募していただけるようになればいいなと思っています。**求職や転職の際は、職場の雰囲気が気になるポイントのひとつ。その空気感が事前にわかれば、応募者ももっと増えるはずです。そのため、理事長にも多く登場してもらいたいと思っています。ご本人は「私は出さなくていいよ……」とおっしゃっていますが（笑）

インスタを活用して狙っていきたい効果

インスタを見て、「明和会で働きたい！」と思う方を増やしたいと考えています。インスタを運用して1年半ほど経ちますが、**実はインスタを見て応募してきてくれた方が1名いらっしゃいました。**その話を聞いたときは本当に嬉しく思いましたが、今後はさらに増やしていく予定です。
これまで以上に現場に足を運び、よりリアルな思いが伝わるようにしていきたいと思っています。また、皆さんの普段の生活感が、ご家族にさらに伝わる投稿を行ってまいります。その結果、求職者や新たなご利用者・入園者が増えれば最高です！

明和会Instagramはこちらから！